

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成 21 年 11 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670800178		
法人名	社会福祉法人 鶴寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	鹿児島県出水市汐見町89番地	0996-67-5626 のぞみ館	
		(電話) 0996-67-3187 なごみ館	

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】(21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	11年	10月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14 人	常勤	14 人,	非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング貼り 造り
	1階建ての, 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実 費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ ー 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.9 歳	最低	82 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	吉井中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

毎年、鶴が飛来する地に、同法人の特別養護老人ホーム・デイサービスセンターに隣接してグループホームひまわりがある。母体法人で行われる夏祭り・運動会・イルミネーションの鑑賞など地域の方々の集う場所になっている。家族の方々は、利用者が重度化した時は、法人の連携で生活の場が確保されていると安心されている。昼食後、光が良く入る居間で、利用者同士の語り合いから懐メロを一緒に口ずさんでいる利用者の明るい笑顔が印象的なホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価は、職員・運営推進会議にて報告している。改善点については、自己評価の取り組みの工夫と重度化した場合における対応に関する指針を作り上げているが、話し合った記録を残していない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の改善点にあげられているが、3ヶ月をかけて話し合って作られた自己評価であるが文言があまり変わっていない。自己評価が職員一人一人の振り返りの機会になる取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市職員・包括支援センター職員・家族・民生委員の参加にて3ヶ月毎に開催されている。事業所の取り組みの状況を報告している。参加者の意見・アドバイスを活かす取り組みは為されていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を年1回開催し、意見を聞く機会を作っている。面会時に家族からの要望を聞くように努めている。要望などは、連絡ノートに記載し、職員は共有して運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>母体法人で行われる行事(運動会・夏祭り・イルミネーションの鑑賞等)が、地域の方々の集いの場になっている。地域活動のクリーン作戦に職員が参加している。高校の実習生の受け入れ、老人クラブ婦人部・保育園児の訪問など地元の人々との交流に務めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を職員が共有しやすいように「さりげない見守り」「家庭的な雰囲気づくり」「その人らしさを大切にケアします」と職員で話し合い作り上げている。	○	地域密着型サービスを実践できるように、地域密着型サービスとしての理念を職員と話し合い、加えることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ケア会議で理念を唱和して共有し、日々のサービスの中で実践するように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人で行われる行事(運動会・夏祭り・イルミネーションの鑑賞等)が、地域の方々の集いの場になっている。地域活動のクリーン作戦に職員が参加している。高校の実習生の受け入れ、老人クラブ婦人部・保育園児の訪問など地元の人々との交流に務めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員間で話し合い作り上げているが、記録を残していない。昨年の外部評価は、職員・運営推進会議にて報告している。改善点については、重度化した場合における対応に関する指針を作り上げているが、話し合った記録を残していない。	○	自己評価・外部評価の取り組の工夫をされ、話し合った記録・改善の経過の記録を残されることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員・包括支援センター職員・家族・民生委員の参加にて3ヶ月毎に開催されている。事業所の取り組みの状況を報告している。	○	運営推進会議は、2ヶ月毎に年六回開催し、事業所の外部の方の参加の割合を増やし、参加者の意見を事業所のサービスの向上に活かされる会議になることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人の中の一つとして、市の担当者・包括支援センターの職員と連携を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所の報告は、年3回、法人の広報誌「鶴だより」の中でグループホームひまわりの覧でしている。家族の面会時に口頭で暮らしぶりや健康状態を報告している。遠方の方へは、請求書送付時に手紙を書いている。金銭管理をしている方の家族へは、面会時に報告しサインをもらっている。職員の異動は、面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催し、意見を聞く機会を作っている。面会時に家族からの要望を聞くように努めている。要望などは、連絡ノートに記載し、職員は共有して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人内の職員で行い、グループホームでのサービスについて指導する職員を必ず付けて、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、母体法人で行われる研修に必ず参加している。外部研修に参加し、職員会議で報告するようにしているが、記録は残っていない。グループホームとしての内部研修はなされてない。	○	グループホームに必要な研修項目を年間計画に掲げ、両ユニット合同で研修する機会を作り、記録を残されることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水・川薩支部認知症グループホーム連絡協議会に加入し、協議会主催の勉強会に参加している。職員の相互訪問等の活動を通しての交流には至ってない。	○	同業者との相互訪問等の活動を通じて交流を行い、職員のサービスの質の向上を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の特別養護老人ホームのショートステイを利用してからの利用者が多く、グループホーム入所後もショートステイの職員が訪問するなどして、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者からあくまき作り・餅つき・昔の行事・生活の工夫を教わりながら、一緒に作業するように努め、本人から学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との会話の中からや、つぶやきから思いや意向を把握するように努め、気付き等をケア会議で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で職員の気付き・意見を聞き、面会時に家族の意見を聞いて介護計画を作成している。必要な時は医師の意見を介護計画に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン実績評価表を使い、毎日のサービスの実施をチェックして、モニタリングを3ヶ月毎に行い、評価している。計画は、6ヶ月毎に見直し状態の変化が見られた場合は、その都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の往診を行い、医療処置を受けながら生活が可能である。家族の要望があれば、病院受診・外泊支援など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医になっている。専門医への紹介を行い適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、家族に説明し配布して、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人で個人情報保護法の研修、ケア会議の中で声かけや言葉遣い・排泄時入浴時のプライバシーについて勉強会をしている。記録物等は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝の時間を決めない等、利用者のペースを大切に支援している。利用者の希望に添って寝る前の少々の飲酒・毎日の化粧の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ・配膳・下膳等、利用者の力量を活かしながら、職員と一緒にいき、食事をしている。毎月1回の誕生日会には、ホテルから仕出し料理を取って楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回予定している。拒否される方は、声かけの工夫をして無理強いすることなく気分良く入浴してもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量にあった家事を手伝ってもらっている。同法人の行事(運動会・夏祭り・七夕祭り・ひな祭り)を楽しみ、コスモスの花見・鶴見学などドライブに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に、ウッドデッキでお茶を飲んだり、法人の敷地内・海岸の岸壁の歩道の散歩等、戸外に出かけられる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、外出傾向のある方の見守りを心がけている。地区のにこにこパトロール隊にも見守りの依頼をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練・夜間想定・地震想定の実践をしている。夜間想定の実践の時には、地域のにこにこパトロール隊も参加してもらっている。非常時の備蓄は法人でまとめて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作っている。食事の摂取量についてはチェックされて把握できているが、水分の摂取量の把握ができていない。利用者の状態や力に応じて刻み食・ミキサー食などの対応をしている。	○	高齢者の脱水症状の予防のためにも水分摂取量の把握をされることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平成11年と15年に建てられた二つのユニットとも回廊式になっており、利用者が日中集う居間や食堂は光が入り易く明るい。壁には、季節を感じられる壁掛けが飾られている。居間はテレビを中心にソファ・マッサージ機が置いてあり思い思いに過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洗面所・ベッド・タンスが備え付けられている。利用者はショートステイ等の施設からの入所の方が多く個性的な部屋は少ないが利用者の思い出の写真・観葉植物・ぬいぐるみ・位牌などが持ち込まれている。		